

子どもの通学の安全を守る

～五個荘日吉町「見守り隊」～

五個荘日吉町は、人口341人、105世帯、高齢化率約32.9%の自治会である。平成24年（2012）7月20日に約44年の五個荘小学校のスクールバスの運行が終了して以降、自治会のスクールガードボランティアとPTAの「見守り隊」の方々が、小学校まで3.5kmの通学路の安全を守り続けている。

1. スクールガードの概要

平成24年（2012）7月20日（金）は、五個荘小学校のスクールバスの最後の運行日であった。東近江市の新しい通園、通学方法の統一基準がつくられ、この日で五個荘小学校のスクールバスの約44年の歴史に幕を閉じた。

現在、五個荘日吉町（以下、日吉町）の小学生は、1～2年生の4人は公共交通機関のバスで、3年生以上の10人は約3.5キロの道のりを、毎日歩いて通学する。

通学時の子どもたちの安全を守るために活動しているのが、スクールガードである。スクールガード活動とは、「各小学校の通学路や学校敷地内において、不審者から子どもたちを守るために、『学校安全ボランティア』として巡回や子どもの見守り活動を行うもの」（東近江市

教育委員会）である。

日吉町では、自治会のスクールガードとPTAの「見守り隊」の方々が当番で活動を行っている。1週間のうち、自治会のボランティアは火・水・木曜日の3日、PTAの方々は月・水・金曜日の3日を担当する。

自治会のスクールガードボランティアは、3月上旬に回覧板でボランティアを募集する。すでに活動して下さっている方々には、翌年も活動を継続してくださるようお願いをする。

そして3月下旬に「スクールガード会議」を開催して、次年度の活動の計画をたて、当番の調整を行い、5月始まりで4月終わりの新しい「スクールガードカレンダー」を作る。5月始まりなのは、新学期から活動を開始するため、4月分は前年に作るからである。

今年（令和2年）は15名のボランティアが



横断歩道を渡る子どもたちの安全を確認する。



子どもの列と一緒に歩く

活動している。このうち2人のボランティアは登校時に子どもたちと一緒に学校まで付き添う。

2. スクールガードの活動～ 雨の日も風の日も

子ども達は西光寺に集合して朝7時15分に出発し、学校に向かう。何しろ3.5kmの道程である。集合時間も早い。「距離が長いと何があるか分かりません」と自治会長の石田光明さんは話す。

スクールガードは登下校の見守りだけではなく、子どもたちのハプニングやアクシデントにも対応する。

たとえば忘れ物をした子どもがいた場合、保護者に電話をして、もってきてもらうように手配する。トイレに行きたくなった子どもには、近所の家にお願いをしてトイレを貸してもらう。

登校途中に熱中症になって倒れた子どもがいたが、救急車を呼んで事なきを得たという。

「最近は不審者情報も多いので注意をしています」と石田さんは話す。登校時間帯だけでなく、夕方の時間帯にも不審者が出没したことがあった。

こうしたなか、五個荘小学校のPTAとスクールガードでは、ライングループをつくり、情報を即座に共有し、やりとりできる態勢を作っている。



雨の日も子どもの列と一緒に歩く

3. 嬉しい出来事

中には、なかなか挨拶が出来ない子どももいる。「知らん人には近づくなという教育のためでしょうか」と長年活動を続ける大橋一清さんは話す。

大橋さんは子どもたちに近づき、しっかりと顔を見て「おはよう」と言い続けた。すると、子どもも「おはよう」といってくれるようになったという。

嬉しい出来事があった。それは、卒業した子どもたちが寄せ書きをした色紙を贈ってくれたことである。

卒業生が先導して、日吉町の小学生全員のスクールガードボランティアの方々への感謝のメッセージが記されていたという。

スクールガードボランティアも、高齢化がすすむ。新規メンバーが、なかなか増えない現状がある。

「元気な人はできるだけ一緒に子どもたちと歩いてほしい」と大橋さんは話す。

子どもたちが、スクールガードボランティアに見守られ通学した経験は、信頼できる地域の大人との出会いの経験でもある。そして、「地域の子どもは地域で守る」という日吉町のDNAが世代を越えて継承されていくのである。



子どもたちを見守りながら